

資料 A 実習生の自己評価チェックリスト（改定版）

平成21年度臨床教育実習「実習生の自己評価チェックリスト」

学年(学部・大学院 _____ 年) 氏名(_____)

- ① このチェックリストは、実習生の皆さんに身につけてほしい知識・能力・態度や、経験してほしいこと等をまとめたものです。
この実習の大黒柱となるものです。
- ② 単にチェックするだけでなく、日頃見直し、自分の状況理解に役立ててください。
- ③ 「10月」「1月」「7月」の各時点で、下記の点数で自己採点してください。
1. できない、2. あまりできない、3. 少しできる、4. だいたいできる、5. よくできる
- ④ そして、なぜ、そのように自己評価したのか、良かったところ、良くなったところ、努力したことは何か、今後取り組みたいことは何か、等、「自分に対する気づき」を、「自己評価の理由等」に記入してください。
- ⑤ なお、仮に「できない」と自己評価したり評点が以前より下がったりしたとしても、それが成績には反映されません。直感的に、自分の感じたとおりに評価してください。

楽しくて、充実した
臨床教育実習にしましょう！



【採点】 1. できない、2. あまりできない、3. 少しできる、4. だいたいできる、5. よくできる

		10月	1月	7月	
I 基礎的知識	1	LDの定義や主な状態像などについて説明できる。			
	2	ADHDの定義や主な状態像などについて説明できる。			
	3	高機能自閉症、アスペルガー症候群の定義や主な状態像などについて説明できる。			
	4	心身症の定義や主な状態像などについて説明できる。			
	5	神経症の定義や主な状態像などについて説明できる。			
	6	不登校の定義や主な状態像などについて説明できる。			
	7	いじめの定義や主な状態像などについて説明できる。			
	8	アセスメントとは何か説明できる。			
	9	特別支援教育とは何か説明できる。			
	10	インクルージョン教育とは何か説明できる。			
	11	教育相談とは何か説明できる。			
	12	家族療法とは何か説明できる。			
	13	「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の関係を説明できる。			
	14	「個別の指導計画」の必要性とその項目を説明できる。			
	15	「個別の指導計画」における「長期目標」および「短期目標」とは何か説明できる。			
自己評価の理由等	10月				
	1月				
	7月				

【採点】 1. できない、2. あまりできない、3. 少しできる、4. だいたいできる、5. よくできる

		10月	1月	7月
II ア セ ス メ ン ト	16	WISC-IIIの結果を分析できる。		
	17	K-ABCの結果を分析できる。		
	18	子どもの学習や行動上の困難と、認知特性との関係を推定できる。		
	19	バウムテスト等の心理検査の結果から、子どもの心理状態を見立てることができる。		
	20	子どもとの面談や行動観察から、子ども理解を深めることができる。		
	21	保護者や学校関係者との面談から、子ども理解を深めることができる。		
	22	家庭や学校の状況、関係者の願いなど、子どもを取り巻く環境について見立てることができる。		
	23	情報をアセスメントシートに整理できる。		
	24	情報を総合的に分析・解釈し、支援仮説を立て、そして、支援の方針をたてることができる。		
自己 評 価 の 理 由 等	10月			
	1月			
	7月			

		10月	1月	7月
III 指 導 ・ 支 援 方 法 の 自 己 学 習	25	読み書き指導に関する事例を読み、参考にすることができる。		
	26	算数の指導に関する事例を読み、参考にすることができる。		
	27	行動改善のための活動事例を読み、参考にすることができる。		
	28	コミュニケーションスキルを高めるための活動事例を読み、参考にすることができる。		
	29	心のケアに関する事例を読み、参考にすることができる。		
自己 評 価 の 理 由 等	10月			
	1月			
	7月			

【採点】 1. できない、2. あまりできない、3. 少しできる、4. だいたいできる、5. よくできる

			10月	1月	7月
導 計 画 個 の 別 作 の 成 指	30	長期目標を立て、それに基づき短期目標を立てることができる。			
	31	短期目標に基づき、指導のねらいを立て、課題を設定し、教材を工夫し、評価の視点を設定できる。			
	32	支援方針に基づき、支援における配慮事項を考えることができる。			
自 己 評 価 の 理 由 等	10月				
	1月				
	7月				

			10月	1月	7月
V 対 応 力 ・ 指 導 力	33	指導構想やインストラクションシートに基づいて、指導ができる。			
	34	配慮事項に基づいて、適切な声かけや対応ができる。			
	35	不適切行動や問題行動が見られた場合、すぐに対応できる。			
	36	子どもができたところを見つけ、ほめることができる。			
	37	見立てや支援方針の妥当性を検証し、必要な場合は修正できる。			
	38	子どもの言動から、指導や心のケアのポイントを見つけることができる。			
	39	子どもをとりまく学校や学級の環境に働きかけることができる。			
自 己 評 価 の 理 由 等	10月				
	1月				
	7月				

【採点】 1. できない、2. あまりできない、3. 少しできる、4. だいたいできる、5. よくできる

			10月	1月	7月
VI 教育的 姿勢	40	自らのふるまい(言葉づかいや態度など)が子どもに与える影響について考え、ふるまうことができる。			
	41	子どもを受容し、共感的に理解しようとし続けることができる。			
	42	子どもと信頼関係を築くことができる。			
自己 評価 の 理由 等	10月				
	1月				
	7月				

【自由記述欄】 あなたの感じていること・考えていることをなんでも書いて下さい。

【採点】 1. できない、2. あまりできない、3. 少しできる、4. だいたいできる、5. よくできる

		10月	1月	7月
VII 連 携 力	43	チームメンバーと協力することができる。		
	44	チームメンバーに自分の考えや意見を伝えることができる。		
	45	チームメンバーの考えや意見に学ぶことができる。		
	46	チームの中での自分の役割を自覚することができる。		
	47	必要な時はリーダーシップをとることができる。		
	48	他のチームのメンバーと協力することができる。		
	49	他のチームのメンバーに自分の考えや意見を伝えることができる。		
	50	他のチームのメンバーの考えや意見に学ぶことができる。		
	51	保護者の思いや立場、状況を理解することができる。		
	52	保護者に支援の内容やその結果を適切に報告できる。		
	53	保護者とともに子ども理解を深め、よりよい支援を考えることができる。		
	54	担任や学校関係者の思いや立場、状況を理解することができる。		
	55	担任や学校関係者に支援の内容やその結果を適切に報告できる。		
	56	担任や学校関係者とともに子ども理解を深め、よりよい支援を考えることができる。		
57	必要に応じて、専門家等に意見を求めたり協力要請したりすることができる。			
58	目的に応じた論理的かつわかりやすい報告文書を作成することができる。			
自己 評 価 の 理 由 等	10月			
	1月			
	7月			

【採点】 1. できない、2. あまりできない、3. 少しできる、4. だいたいできる、5. よくできる

			10月	1月	7月
Ⅷ 自己内省力・ 自己成長力	59	自らの体験を振り返り、言語化することができる。			
	60	体験を通しての自分の感情の動きや在り方、変化を見つめることができる。			
	61	自らの失敗に学ぶことができる。			
	62	分らないことを分からないと言うことができる。			
	63	指導や支援に関しての自分の得意分野を自覚できる。			
	64	指導や支援に関しての自分の不得意分野を自覚できる。			
	65	自分自身を成長させるために、積極的に努力することができる。			
自己評価の理由等	10月				
	1月				
	7月				

			10月	1月	7月
Ⅸ 倫理	66	守秘義務の重要性を理解し、遵守することができる。			
	67	個人情報の扱いについて責任を持つことができる。			
	68	子どもや関係者に苦痛や不利益をもたらさないように配慮できる。			
自己評価の理由等	10月				
	1月				
	7月				